

# 令和 8 年度ストック・トルコぎきょう・スターチス病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山  
さがえ西村山花き振興協会

## ストック

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔使用時期／使用回数〕				注 意 事 項																				
（は種土）前	苗立枯病 萎凋病 [苗腐病・立枯病]		床土の消毒を行う。				高温多湿は発生を助長するので通風をはかる。																				
まはたは植付前種	萎凋病	8F	・本畑の土壌消毒 バスマミド微粒剤㉞ 30～40kg／10 a〔は種又は植付前／ 1 回〕を均一に散布して土壌と混和する。 混和後、ビニール等で被覆する。 ・適度の土壌水分のときに使用する。 ・被覆後 7～14日に被覆を除去し、少なくとも 2 回以上の耕起によるガス抜きをおこない、散布後21日以上経てから作付けする。 ・土壌還元による方法 圃場に多量の水と有機物（米ぬか）を投入し、ビニール等で被覆して還元化を促進し農薬を使わずに病害虫を死滅させることができる。但し、米ぬかによる殺菌殺虫などの直接的な防除効果は期待できない。				1. 病害の発生を抑制するため排水をはかる。 2. 萎凋病の発病したほ場を耕耘した際は、トラクターロータリーに付着した土を洗い落とし、次のほ場に入るよう注意する。 3. 土壌消毒を実施した場合は、減肥を行なう。																				
			処理適期		投入量	被覆期間																					
			6月上旬～7月下旬 (地下10～15cmの地温が30℃以上確保できる時期)		1,000kg／10 a	約 20 日																					
定植時	コナガ	1A	オンコル粒剤 5 を 1 株当たり 0.5 g〔定植時／ 1 回〕を株元散布する。				茎葉、根に薬剤が直接触れないように注意する。																				
生育期	菌核病	1	トップジンM水和剤 1,500倍（6.6 g／10 ℓ）〔－／ 5 回以内〕を散布する。				1. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないよう注意する。 2. 着蕾期以降は汚染をさけるため散布しない。 3. 菌核病の発病株はすみやかに抜き取り適正に処分する。																				
	灰色かび病	19	ポリオキシシンA L 水溶剤	2,500倍（4 g／10 ℓ）〔発病初期／ 8 回以内〕	のいずれかを散布する。		1. 着蕾期以降は高温時に葉害が出ることがあるので注意する。 2. フルピカフロアブルはおうとうに葉害のおそれがあるので注意する。																				
		9	フルピカフロアブル	3,000倍（3.3ml／10 ℓ）〔発病初期／ 5 回以内〕																							
		7	アフエットフロアブル	2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発病初期／ 3 回以内〕																							
	モザイク病 [カボモザイクウイルス] キュウモザイクウイルス]		1. ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。 3. 被害株は早期に抜き取り適切に処分する。				発病株に触れた手で健全株に触れない。																				
	コナガ [ヨトウムシ類 アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ]		1. ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 2. コナガ成虫は見つけ次第補殺する。 3. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループ（A～F）で輪用散布を行う。				1. ヨトウムシ類、アオムシは若齢幼虫時に防除する。 2. マブリック水和剤20㉞は、幼苗期や軟弱な生育のときの使用はさける。 3. ハイマダラメイガの防除時期は、八重鑑別前からの防除を徹底する。 4. ノーモルト乳剤は、高温時の散布をさける。 5. トアロー水和剤C T、ノーモルト乳剤、マブリック水和剤20㉞、コテツフロアブル㉞、アフファーム乳剤は、蜚毒が強いので注意する。 6. オルトラン水和剤は、アブラムシ類、ハイマダラノメイガにも登録がある。 7. アフファーム乳剤はヨトウムシ類には1,000倍で散布する。																				
<table><tr><td>1B</td><td>A</td><td>オルトラン水和剤</td><td>1,000 倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕</td></tr><tr><td>11A</td><td>B</td><td>トアロー水和剤C T</td><td>1,000 倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／－〕</td></tr><tr><td>15</td><td>C</td><td>ノーモルト乳剤</td><td>2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕</td></tr><tr><td>3A</td><td>D</td><td>マブリック水和剤 20 ㉞</td><td>2,000 倍（5 g／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕</td></tr><tr><td>13</td><td>E</td><td>コテツフロアブル㉞</td><td>2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕</td></tr><tr><td>6</td><td>F</td><td>アフファーム乳剤</td><td>2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕</td></tr></table>				1B	A	オルトラン水和剤		1,000 倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕	11A	B	トアロー水和剤C T	1,000 倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／－〕	15	C	ノーモルト乳剤	2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕	3A	D	マブリック水和剤 20 ㉞	2,000 倍（5 g／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕	13	E	コテツフロアブル㉞	2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕	6	F	アフファーム乳剤
1B	A	オルトラン水和剤	1,000 倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕																								
11A	B	トアロー水和剤C T	1,000 倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／－〕																								
15	C	ノーモルト乳剤	2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕																								
3A	D	マブリック水和剤 20 ㉞	2,000 倍（5 g／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕																								
13	E	コテツフロアブル㉞	2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕																								
6	F	アフファーム乳剤	2,000 倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕																								
ハモグリバエ類	6	アフファーム乳剤 1,000倍（10ml／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕を散布する。				発生の多い場合は、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍〔発生初期／ 6 回以内〕を使用できる。																					
アブラムシ類	4A	モスピラン顆粒水溶剤㉞ 4,000倍（2.5 g／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕を散布する。				モスピラン顆粒水溶剤㉞は蜚毒が強いので注意する。																					

## トルコぎきょう

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔使用時期／使用回数〕			注 意 事 項
（定植前） （本畑）	株 腐 病 立 枯 腐 病 根 腐 病	8F	バスマミド微粒剤 <sup>㊞</sup> （20～30kg／10 a）〔は種又は植付前／ 1 回〕を均一に散布して土壌と混和し、ビニール等で被覆する。			1. 病害の発生を抑制するため排水をはかる。 2. 適度の土壌水分のときに使用する。 3. 被覆後 7～14日に被覆を除去し、少なくとも 2 回以上の耕起によるガス抜きをおこない、散布後21日以上経てから作付けする。
	灰 色 か び 病	19 9 7	ポリオキシシンAL水溶剤 2,500倍（4 g／10 ℓ）〔発病初期／ 8 回以内〕 フルピカフロアブル 3,000倍（3.3ml／10 ℓ）〔発病初期／ 5 回以内〕 アフエットフロアブル 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発病初期／ 3 回以内〕	のいずれかを散布する。		1. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないよう注意する。 2. フルピカフロアブルは、おうとうに葉害のおそれがあるので注意する。
生 育 期	株 腐 病	14	リゾレックス水和剤 500倍（3 ℓ／㎡）〔生育期／ 5 回以内〕を土壌灌注する。			
	モザイク病 えそ斑紋病 えそモザイク病		1. ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 2. アブラムシ類・アザミウマ類を防除する。 3. 被害株は早期に抜き取り適切に処分する。			発病株に触れた手で健全株に触れない。
	斑 点 病	7 11	パレード20フロアブル 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発病初期／ 3 回以内〕 メジャーフロアブル 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発病初期／ 3 回以内〕	のいずれかを散布する。		1. アフエットフロアブル、パレード20フロアブルは同一成分とみなし、耐性菌出現防止のため連用は避け、総使用回数は 2 回以内とする。 2. メジャーフロアブルには展着剤を加用しない。
	ハダニ類	21A	ピラニカEW <sup>㊞</sup> 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 1 回〕を散布する。			
期	アザミウマ類 〔ミカンキイロアザミウマ〕 〔ヒラズハナアザミウマ〕 〔アブラムシ類〕	1B  1B 3A	1. ジェイエース粒剤を株当たり 1～2 g（但し、9 kg／10 a まで）〔発生初期／ 5 回以内〕を株元散布する。  2. ジェイエース水溶剤 1,000倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕 マブリック水和剤20 <sup>㊞</sup> 4,000倍（2.5 g／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕	のいずれかを 1 番花 開花前までに散布する。		1. ミカンキイロアザミウマの発生が多い場合は、コテツフロアブル <sup>㊞</sup> 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／ 2 回以内〕を散布する。 2. ヒラズハナアザミウマの発生が多い場合は、アディオフロアブル1,500倍（6.6 ml／10 ℓ）〔－／ 6 回以内〕を散布する。 3. マブリック水和剤20 <sup>㊞</sup> は開花前までに散布する。
	ハスモンヨトウ	3A	トレボン乳剤 1,000倍（10ml／10 ℓ）〔－／ 6 回以内〕を散布する。			
	オオタバコガ	28 6	フェニックス顆粒水和剤 2,000倍（5 g／10 ℓ）〔発生初期／ 4 回以内〕 アフファーム乳剤 1,000倍（10ml／10 ℓ）〔発生初期／ 5 回以内〕	を散布する。 を散布する。		

## スターチス

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔使用時期／使用回数〕				注 意 事 項
生	灰 色 か び 病	10,1	ゲッター水和剤		1,000倍（10 g／10 ℓ）〔－／5回以内〕	のいずれかを散布する。	1. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないよう注意する。 2. フルピカフロアブルは、おうとうに葉害のおそれがあるので注意する。 3. フルピカフロアブルは、うどんこ病にも効果がある。
		2	ロブラール水和剤		1,500倍（6.6 g／10 ℓ）〔－／8回以内〕		
		9	フルピカフロアブル		2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発病初期／5回以内〕		
育	ウ イ ル ス 病		1. 被害株は早期に抜きとり、適切に処分する。 2. アブラムシ類、アザミウマ類を早期に防除する。				
	アブラムシ類	1B	ジェイエース粒剤 2 g／株（但し、9 kg／10 a まで）〔発生初期／5回以内〕を株元散布する。				1. ハウスの出入口や側面に寒冷しゃを張る。 2. ジェイエース粒剤、ジェイエース水溶剤は、アザミウマ類にも登録がある。
1B 4A		ジェイエース水溶剤	1,000倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／5回以内〕	アドマイヤーフロアブル <sup>㊞</sup>		2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／5回以内〕	
期	ミカンキイロアザミウマ	4A	アクタラ顆粒水溶剤		1,000倍（10 g／10 ℓ）〔発生初期／6回以内〕を散布する。		
	ヨ ト ウ ム シ	3A	アディオフロアブル		1,500倍（6.6 ml／10 ℓ）〔－／6回以内〕を散布する。		
	ハ ダ ニ 類	21A	ピラニカE W <sup>㊞</sup>		2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／1回〕	のいずれかを散布する。	ピラニカE W <sup>㊞</sup> は高温時に葉害が発生する場合があるので注意する。
10B		バロックフロアブル		2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔発生初期／1回〕			